

A 国語問題

注意

- 一 試験開始の指示があるまでこの問題冊子を開いてはいけません。
- 二 解答用紙はすべてHBの黒鉛筆またはHBの黒のシャープペンシルで記入することになっています。HBの黒鉛筆・消しゴムを忘れた人は監督に申し出てください。
(万年筆・ボールペン・サインペンなどを使用してはいけません。)
- 三 この問題冊子は20ページまでとなっています。試験開始後、ただちにページ数を確認してください。なお、問題番号は一〜三となっています。
- 四 解答用紙にはすでに受験番号が記入されていますので、出席票の受験番号が、あなたの受験票の番号であるかどうかを確認し、出席票の氏名欄に氏名のみを記入してください。なお、出席票は切り離さないでください。
- 五 解答は解答用紙の指定された解答欄に記入し、その他の部分には何も書いてはいけません。
- 六 解答用紙を折り曲げたり、破つたり、傷つけたりしないように注意してください。
- 七 この問題冊子は持ち帰ってください。

マーク・センス法についての注意

マーク・センス法とは、鉛筆でマークした部分を機械が直接よみとって採点する方法です。

- 一 マークは、左記の記入例のようにHBの黒鉛筆で枠の中をぬり残さず濃くぬりつぶしてください。
- 二 一つのマーク欄には一つしかマークしてはいけません。
- 三 訂正する場合は消しゴムでよく消し、消しきらずはきれいに取り除いてください。

マーク例

①	1	2	3	4	5
	0	0	●	0	0

(3と解答する場合)

一 左の文章を読んで後の設問に答えよ。(解答はすべて解答题紙に書くこと)

太宰治に「満願」という題の掌編がある。太宰ファンならずとも知っている有名な佳作だから、いまさら筋をなぞるのも気が引けるが、一応。——「私」が伊豆に暮らしていたころ、足にけがをして開業医の治療を受けたのが縁で、医師と仲良くなる。「私」は毎朝の散歩の途中、医師の家に立ち寄り、縁側に座って新聞を読ませてもらったり談笑したりするようになった。縁側の先には草原があり、水量たっぷりの小川がゆるゆる流れている。その小川に沿った道を歩いて、若い女性が病院に通ってきては薬をもらって行く。ときには医師が玄関までその女性を見送り「奥様、もう少しのご辛抱ですよ」などと声をかけたりしていた。医師夫人によれば、若い女性は結核療養中の小学校の先生の奥さんで、医師は言外にあるつよい意味をこめて「ご辛抱ですよ」と叱咤していたのだという。八月のある日、「私」はその女性が白いパラソルをくると回し、いつになく暗れやかな様子で帰っていくのを見た。医師夫人が「私」の耳に囁いた。今朝、三年ぶりでお許しがでたのだ、と。「私」は胸がいつぱいになり、美しいものを見た、と思う。

それだけのことのだが、情景は水彩画のようにくつきりと脳裏に浮かぶ。草原や小川やパラソルという清々しい日常に生々しいエロスが溶けて、風景がにわかにも熱を帯びて立ち上がってくる。嫌いな作品ではない。けれども、筆の先には達者が見えずぎて繰り返す読むと興の醒めることもないではない。作意ははつきりしている。文の向こうから、どうだ参ったか、という著者の得意の声が聞こえてきそう。静謐で艶めかしいこの日常は、当然ながら素描の都合に合わせて多少は仮構されたであろう。創作上、それはなにも悪いことではない。ただ、さほどまでの気の配りがあつたとしたら、太宰は執筆時このスケッチの遠景となる時代をも甚く意識していただろうし、時代とこの風景の関係性を十分計算した上で文を紡いだはずである。「満願」に切り取られた風景はそうした角度から眺めなければ、⁽¹⁾太宰が仮装してみせた日常の底意までは見えてこないだろう。

「満願」は一九三八(昭和十三)年の九月に発表された。同年四月には、国家総動員法が公布されている。「政府

ハ戦時ニ際シ国家総動員上必要アルトキハ、勅令ノ定ムル所ニ依リ、帝国臣民ヲ⁽¹⁾チヨウヨウシテ総動員業務ニ従事セシムルコトヲ得(第四条)、「政府ハ戦時ニ際シ国家総動員上必要アルトキハ、勅令ノ定ムル所ニ依リ、新聞紙其ノ他ノ出版物ノ掲載ニ付、制限又ハ禁止ヲ為スコトヲ得(第二十条)」などの各条項を太宰が知らなかつたわけがない。時代は、「奥様、もう少しのご辛抱ですよ」どころではなかつたのだ。一九三八年八月二十四日付の東京朝日新聞には「漢口陥落を描けと文芸陣に、動員令」という大見出しが躍っている。どういふことかといえば、漢口(現在の湖北省武漢) 大決戦をひかえて内閣情報部が著名作家らを動員し「長期戦下の民論昂揚」に乗りだすこととなり、内閣情報部会議室で文壇人、軍部らが懇談会をもつた。この懇談会に文壇側から駆け参じたのは、菊池寛、久米正雄、吉川英治、白井喬二、横光利一、片岡鉄兵、尾崎士郎、佐藤春夫、小島政二郎、吉屋信子、北村小松、丹羽文雄だつた。出席者全員が文壇人動員計画に賛成し、「ここに、愈^{いよいよ}漢口陥落をめぐつて文章報国の体勢が整へられることゝなつた(同紙)」という。

要するに、国民の戦意昂揚のために侵略戦争賛美の従軍レポートを書けという国家権力の求めに、作家らが得たりやおうと乗つたわけである。総勢二十二人の従軍作家らは「文士連隊」とか「ペン部隊」とかいわれ、「満願」が発表された九月に相次いで漢口に向かい、各紙特派員とともに戦争宣伝にこれ努めたのであつた。掌編「満願」の遠景には、およそ作品の質となじまないことゝなつたことどもがある。「満願」の日常を描いた太宰の心境は、したがつて、字面ほど⁽²⁾アンノンとはしていなかつたはずだ。いや、相当の葛藤と覚悟があつたであらう——というのが、私の想像である。「満願」には他の太宰の作品同様に「国家」がない。もちろん、「文章報国」も「文芸報国」もない。いうまでもなくそのことは太宰の内面でつよく意識されていたはずだ。というより、太宰は国家主義の重圧のなかで努めて極小の「個」を主役とする日常の物語を仮構することにより、国家をみずからの内面から意図的に排除していたのではないか。そうすることが、国家への消極的な抵抗であり、太宰という人間個体と国家のある種のバランスでもあつたのではなからうか。

「満願」についてくださしくここまで書いたのは、いまの世の中でもこうした太宰式の生きる方法が人間的に

有効かどうか考えたからである。時代の危機を十二分に感じながら、むしろだからこそ時代に背を向けて、故意に非国家的な日常に逃げこむ。そうしたい衝動が、正直、私にはある。草原や小川を背景に眩しいほど白いパラソルがくるくる回っている。その下に三年ぶりの性を解禁されて喜ぶ女がいる。すばらしい発見だ。国家総動員法などどこ吹く風と、極小のその発見を読者とともに楽しむ。国家的大事とはどこまでもなじまない非国民的「私」を見つめつけ、怯懦な「私」をこそ描きつくす。それはあつていい。ありうる。しかし、消極的であれミニマムであれ、それはいったい人間個体の国家への「抵抗」と呼べるものなのかどうか。太宰を抵抗者のように買いかぶる評者も少なくないが、私はいつも首を傾げてしまう。太宰は好きだが、評価は疑問だ。⁽³⁾自己韜晦することにより、国家との関係を曖昧にし、実質的に追従しているのに抵抗しているようにも見せかける仕掛けが太宰の後の戦後の文学にもある。果敢に見えて卑怯。この国の湿土に育つ精神は太宰にかぎらず、どこか卑小でもある。いまも昔もなぜ抵抗は持続できないのか。⁽⁴⁾日常はなぜ危機を食いつくすのか。

白いパラソルをもつ「満願」の女の背後には、よく眼を凝らせば、草原や小川ばかりではなく、はるか遠くに禍事らしい黒い影も見えてくるはずだ。水量豊かなあの小川にはじつはたくさん死体が浮いていたのだ。そう見るべきである。

(辺見庸「日常という仮装」より)

問

- (A) 〓 線部(イ)・(ロ)を漢字に改めよ。(ただし、楷書で記すこと)
- (B) 〓 線部(1)について。筆者がいう「太宰が仮装してみせた日常の底意」とはどのようなものであるか。本文中の表現を用い、句読点とも五〇字以内で説明せよ。
- (C) 〓 線部(2)について。その説明として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 静謐で艶めかしい日常をスケッチすることで禍々しい現実が遠景に退けられている。
- 2 主人公の晴れやかな表情のなかに暗い時代に対する庶民の抵抗が込められている。
- 3 清々しい日常に生々しいエロスが溶けて水彩画のような美しさを醸しだしている。
- 4 逆境にあつても生命の輝きを失わない女性の姿がひとつの発見として描かれている。
- 5 非国民的な「私」を凝視し卑小であることの尊さを読者とともに楽しもうとしている。

(D) —— 線部(3)について。その説明として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 自分を第三者の視点で見つめること。
- 2 自分の弱さをさらけ出すこと。
- 3 自分を批判的に捉えること。
- 4 自分の本心を包み隠すこと。
- 5 自分という存在を抹消すること。

(E) —— 線部(4)について。筆者はなぜ「日常」が「危機を食いつくす」と考えるのか。その説明として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 国家との関係を曖昧にしたまま個の領域に留まろうとする態度のなかに国家への抵抗を見るような風潮が蔓延することで、時代の危機そのものが見えなくなってしまうから。
- 2 卑小な人間の日常を通して世界を解釈し直すという文学の本来的な役割が見失われているにもかかわらず、現代の作家たちがそのことに危機感を抱いていないから。
- 3 よく眼を凝らせば遠くに禍事としての現実が見えてくるはずなのに、戦時下を生きた人々はそうした現実の危機を直視することなく侵略戦争賛美の論調に迎合していたから。
- 4 読者の日常に迎合して卑小な「個」の営みに迫ろうとする作家が増えていることに憤っていた自分自身もまた、そのことに対する危機感を失っていると感じたから。

5 実際には国家に追従しているのにそれを抵抗と買いかぶるような読者が増えることで時代への危機感が薄れ、文学の質そのものが卑小なものになってしまうから。

(F) 次の各項について、本文の内容と合致するものを1、合致しないものを2として、それぞれ番号で答えよ。

イ 戦時下の従軍作家たちは必ずしも国家権力に屈して侵略戦争賛美の文章を書いたわけではない。

ロ 「満願」の作意を感じとるためには書かれていないことも含めて作品の背景を凝視すべきである。

ハ 太宰治を国家への抵抗者として買いかぶる読者は彼の小説の仕掛けにまんまとはまっている。

ニ 太宰治は「満願」において敢えて非国民的な生き方しかできないいくじなしの語り手を描いた。

ホ 時代に背を向けてささやかな日常に逃げ込んでしまいたいという衝動は克服されなければならない。

二 左の文章を読んで後の設問に答えよ。(解答はすべて解答用紙に書くこと)

初音ミクとは、ヤマハが開発した合成音声技術「VOCALOID2」^(注1)によって、声優の藤田咲^(注2)のボイス・ライブラリを組み込み、ユーザーが自由に彼女をヴォーカルとして歌わせることができるソフトウエアである。動画サイト「ニコニコ動画」⁽¹⁾に、制作された楽曲が多数「動画」としてアップロードされたことで、本作は大ヒットするに至った。

ポピュラー音楽を研究する増田聡は、開発者の一人である佐々木渉のインタビューでの発言を引きつつ、そこに開発スタッフの困惑を読み取っている(増田聡「データベース、パクリ、初音ミク」)。その「困惑」とは、技術的な限界により、どうしても残ってしまう合成音声の「聞こえ」の違和感に、⁽⁴⁾ホウベンとして付したキャラクターの絵図が引き金となった、想定外なヒットに向けられたものだという。

音質としての不具合が、むしろ「キャラクターの音声」としての説得力を担保する。⁽²⁾この奇妙な聴取のあり方について、増田聡は以下のように述べている。

創作労力の節減のためのツールとして送り出されたものが、キャラクター志向的な想像力によるパブリシティの享受へと吸引されてしまう事態は、声という音響素材が、なにがしかの特定の主体の存在と結びつけられてしまう(われわれの、音に対する)想像力の構造が根強いことを物語っている。^(注3)クリプトン社がキャラクター・ポーカー・シリーズの音声ライブラリ収録を打診した際、多くのプロ歌手に断られたというエピソードは興味深い。(増田・前掲論文)

増田は続けて、このような聴取のあり方を準備したものとして、「日本社会に特有の環境」が関係している可能性を述べている。それは、ほぼ間違いなくアニメーション(以下、アニメ)における声優の声の聴取のことを指

すのだろう。本作がそれまでの VOCALOID シリーズと異なるのは、声優の藤田咲の音声素材に用いている点だ。

筆者は別の機会で、映像学の研究者である桑原圭裕の分析を引きつつ、手塚治虫が考案した製法で作られたテレビアニメにおいては、音声は [a] なものとして扱われているのではなく、むしろ先行した音声に対して、映像こそが [b] に扱われていると述べた(黒寄想「仮声のマスク(前)」)。これらの映像においては、音声に対する解釈の手がかりとして視覚形象が現れている。

リミテッドアニメとは、動画枚数を節減されたアニメを指す。この手法は本来、ディズニータンアニメをはじめとしたフルアニメ(リミテッドアニメの対義語である)のリリズムへの反発を示す、批判的かつ積極的な表現であった。しかし、日本のテレビアニメにおいては、十分でない制作条件から要請された、不可避の省力技術として採用されることになる。それを決定づけたのが、手塚治虫率いる虫プロダクションが制作した、テレビアニメ『鉄腕アトム』(一九六三年)だ。

手塚の考案した本作の製法は、毎週三〇分の映像をなるべく止め、繰り返し、使い回すことで時間を稼ぐといったものであった。桑原によれば、その結果としてこれらの映像は、視覚情報だけでは何が起こっているのか判断が難しいものとなり、そのしわ寄せとして、付加された音声情報がこれらの大半を説明してみせるものとなる(桑原圭裕「アニメーションにおける音と動きの表現 『鉄腕アトム』を中心に」)。

それは微視的な次元では、バラバラの画風で描かれたキャラクターの同一性を担保する、音声のインデックスとして機能し、巨視的な面においては、物語の筋、キャラクターのおかれた状況のほとんどを説明する音声のガイダンスとして機能する。また、以上のような要請を満たすものとして、声を吹き込む俳優には、当時海外ドラマの吹き替えを生放送で行なっていた「声優」と呼ばれる役者たちが、技術者として起用されることとなった。

このように映像の情報のほとんどを音声に偏重させた『鉄腕アトム』によって、国内のテレビアニメの本格的

な制作は始まった。驚くべきことに、このような製法は、鉄腕アトム放映の五〇年以上が経った現在も、基本的には変わっていない。そしてこのような歩みの中で、音声への偏重を象徴するかのよう⁽³⁾に膨張を見せたのが、声優の专业化であり、彼ら彼女らの声そのものが商品化するという事態だ。

幾多もの專業の声優が誕生したことで、彼ら彼女らの声は、各アニメ作品を横断して兼ね役^(注5)を持っていることが常態化した。つまりこの状況の中で聴取者たちは、一方においてはキャラクターの同一性と物語世界を成立させる声として声優の声を聞いており、他方においては、声優が各作品を横断して複数のキャラクターと世界を成立させている単一の声であると了解しているのだ。

このような消費を振り返るならば、先の増田の発言はよりガテン^(注4)がいくものとなるだろう。先述したように初音ミクの隆盛は、楽曲製作者たちの「ニコニコ動画」での動画投稿が引き金となつている。興味深いのは、それらの動画が先に述べたような、手塚治虫由来の、リミテッドアニメの作法で作られている点である。そもそも手塚が考案した製法が、限られた制作条件で映像を量産する省力技術であつたことを見れば、ここに再現されたことは必然なのかもしれない。

ともかくここには、テレビアニメにおける「声優の声」の聴取という、「日本社会に特有の環境」が、個々の「動画」において再現されている。つまり初音ミクの声は、「動かないアニメ」の声として聞かれたものであり、であるからこそ、単一の発声者とのつながりを聞こえとしても失っている声質は、むしろ複数のキャラクターを生成するものとして、説得力を持ったのだ。

そして、このような需要に恵まれた初音ミクは、複数の楽曲と共に、公式の設定を離れた複数のキャラクターを実際に生成することになる。詳細に立ち入ることはできないが、^(注6)亞北^{あきた}ネルや弱音ハク、ソワカちゃんといった、造形的な同一性が保証されているとは言い難いキャラクターたちの「声」としても、合成音声ソフト「初音ミク」

の発する音響は共有されることとなった。

このような声の聴取は、先ほどの声優の声のものよりも、さらに先の段階に進んでいる。ここでは、実際の「発声者」が誰・どれであるかを裁定する審級が、もはや存在しない。このような「亜流キャラクター」の生成について、漫画評論家の伊藤剛は、次のように述べている。

「ミク」というキャラは、コミュニティによつてその存在感を担保されてしまっている。そのため「設定」や「属性」は、コミュニティの成員の共通認識になりえたものに限られる。そのため、ある固有の「物語」に縛られることがない。いま私は、穏便な表現として「縛られることがない」と書いたが、これはむしろ逆に、コミュニティの了解に縛られ、無数の「物語」の前に開かれていながら、固有の「物語」を持つことができないと言ったほうがよいと思う。(伊藤剛『ソワカちゃん』から「初音ミク」へ)

声優・藤田咲と初音ミクとの両者の音声に、ペンベツ可能な連続性を見つけていることは困難だ。また、初音ミクに公式に与えられた設定は、ほとんど名前と形象のみの最低限の情報であり、初めから特定の物語を持たないものとして描かれている。つまり「亜流キャラクター」が発声者として真偽の判断に関わる以前に、そもそも複数の初音ミク自体が、部分的な形態の類似程度において整序されるものでしかない。

合成音声ソフト「初音ミク」の発する音響は、それが「声」として聴き取られれば漂着する対象を選ばず、「亜流キャラクター」生成の成否は、のちに同キャラクターを使用した創作が続く程度の共同体が現れるかに関わっている。逆に言えば、だからこそ、これらの本流／亜流に分ける基準は、それぞれの解釈共同体の規模ぐらゐにしか残されていないのだ。

(黒寄想「縫い付けられた声」による)

問

(注)

- 1 初音ミック——キャラクターとしての初音ミックについては、少女のような容姿や衣装を描いたキャラクターデザインが存在する一方、プロフィールとしては年齢・身長・体重しか、公式には設定されていない。
- 2 藤田咲——多数のアニメ作品等のキャラクターを演じる人気女性声優。
- 3 クリプトン社——ソフトウェア「初音ミック」の販売元。
- 4 手塚治虫——漫画家であるとともに虫プロダクションを設立してアニメ制作にも尽力した(一九二八—一九八九)。
- 5 兼ね役——複数の役を一人の役者が演じること。
- 6 亜北ネル、弱音ハク、ソワカちゃん——ともに初音ミックの愛好者によって派生的に創作されたキャラクター。

(A) 〓〓線部(イ)を漢字に改めよ。(ただし、楷書^{かいしよ}で記すこと)

(B) 〓〓線部(1)について。このことはどのような結果をもたらしたか。最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 初音ミックのキャラクターがディズニータンメのようなフルアニメのリアリティを帯びるようになった。
 - 2 初音ミックの音響が動画に映る声優・藤田咲と強く結びついて人々に聴き取られるようになった。
 - 3 初音ミックの声が日本のリミテッドアニメにおける声優の声と同じように聴取されるようになった。
 - 4 初音ミックのキャラクターがアニメのように動画のストーリーを説明する役割を担うようになった。
 - 5 初音ミックが動画を横断して複数の役を持つことにより、その声自体が商品とみなされるようになった。
- (C) 〓〓線部(2)について。筆者はなぜ「奇妙な」と評しているのか。最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 技術上の困難から生じる音質の違和感が、音声を初音ミックの声として認知させることに繋がったから。

- 2 プロ歌手ではなかった藤田咲の声が、むしろ初音ミクというキャラクターの歌声により適合したから。
- 3 不具合ともとれる VOCALOIDらしさを狙った声質が、初音ミクの声から藤田咲の要素を払拭したから。
- 4 不可避的な音質としての不具合が、初音ミクの不十分なキャラクター設定を補ったから。
- 5 「聞こえ」の違和感をごまかすためのキャラクターの絵図が、意外にも大きなヒットをもたらしたから。
- (D) 空欄 a · b に入る語の組み合わせとして最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 a 聴覚的 b 視覚的
- 2 a 主位的 b 予備的
- 3 a 映像的 b 音声的
- 4 a 二次的 b 副次的
- 5 a 積極的 b 主体的

(E) 線部(3)について。この説明として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 アニメの映像の持つリアリズムに対抗するため、音声のリアリティにより重点が置かれたこと。
- 2 動画枚数を減らしたことによって生じた画面上の情報貧弱さを、音声によって補ったこと。
- 3 画面上からは誰か分からないキャラクターの造形を、音声によって説明するようになったこと。
- 4 声優自身が注目を集めたため、アニメにおける音声の役割が重視されるようになったこと。
- 5 専門化した声優が多数のアニメ作品を横断して複数の役を持つようになったこと。

(F) 筆者の考える初音ミクの声の聴取と声優の声の聴取の違いの説明として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 声優の声には声優自身の声としての商品需要しかないが、初音ミクの声には初音ミクとしての需要以外に声優・藤田咲の声としての需要も存在する。

- 2 声優の声はその実際の発声者である声優という生身の人間の声としても認識されるが、初音ミクの声は虚構の存在である初音ミクの声としか認識されない。
 - 3 声優の声はリミテッドアニメ制作上の要請に応える機能を果たしていたが、初音ミクの声は「動画」においてそうした要請にさらされていない。
 - 4 声優の声の本流／亜流の区別は演じるキャラクターの解釈共同体の規模に左右されないが、初音ミクの声の本流／亜流の区別は各キャラクターの解釈共同体の規模に依存する。
 - 5 声優の声の聴取にはキャラクターの声であるとの認識と声優自身の声であるとの認識が併存するが、初音ミクの声は特定の発声者と必ずしも結びつかない。
- (G) 次の各項について、本文の内容と合致するものを1、合致しないものを2として、それぞれ番号で答えよ。
- イ 省力技術として開発されたリミテッドアニメの手法は、フルアニメに対する批評性を帯びるようになった。
 - ロ 日本のアニメは、ディズニリアニメと異なる道を歩むことで、ディズニリアニメを凌駕する魅力を得た。
 - ハ 日本国内におけるテレビアニメの製法は、『鉄腕アトム』放映時から現在に至るまでに大きく変化した。
 - ニ 初音ミクの声は、彼女とは容姿が異なるキャラクターの声に当てられることを、聴取者は受け入れている。
 - ホ 固有の物語に縛られない初音ミクのキャラクターは、亜流キャラクターとしてはじめて固有の物語を持つ。

三 左の文章を読んで後の設問に答えよ。(解答はすべて解答用紙に書くこと)

また、賢人のもとにも、不覚なるものもありけり。

(注1) 九条民部卿顛頼のもとに、あるなま公達、年は高くて、近衛司を心がけ給ひて、あるものして、「よきさまに奏

し給へ」など、いひ入れ給へるを、主うち聞きて、「年は高く、今はあるらむ。なんでふ、近衛司、望まるるやら

む。(1) 出家うちして、かたかたに居給ひたれかし」と、うちつぶやきながら、「細かに承りぬ。ついではべるに、奏

しはべるべし。このほど、いたはることありてなむ、かくて聞きはべる。いと便なくはべり、と聞こえよ」とあ

るを、この侍、さし出づるままに、「申せと候ふ。年高くなり給ひぬらむ。なんでふ、近衛司、望み給ふ。かたか

たに出家うちして、居給ひたれかし。さりながら、細かに承りぬ。ついではべるに奏すべし、と候ふ」といふ。

(a) この人、「し(注4)かしかさまはべり。思ひ知らぬにはなけれども、前世の宿執にや、このこと(3)ざりがたく心にかかり

はべれば、本意遂げてのちは、やがて出家して、籠りはべるべきなり。(5) 隔てなく仰せ給ふ、いとど本意にはべり」

とあるを、そのままにまた聞こゆ。主、手をはたとうち、「いかに [] つるぞ」といへば、「しかしか、仰せ

のままになむ」といふに、(7) すべていふばかりなし。

(b) この使にて、「いかなる国王、大臣の御事をも、内々おろかなる心の及ぶところ、さこそうち申すことなれ。そ

れを、この不覚人、ことごとくに申しはべりける。あさましと聞こゆるもおろかにはべり。すみやかに参りて、

御所望のこと申して聞かせ奉らむ」とて、そのち、少将になり給ひにけり。まことに、いはれけるやうに、出

家していまそかりける。

古人いへることあり。「人を使ふことは、工の木を用ふるがごとし」といへり。「かれはこのことに堪へたり。

これはこのことによし」と見はからひて、その得失を知りて使ふなり。しかれば、民部卿、「えせたくみ」にてお

はしけるやらむ。申次ぎすべくもなかりける侍なりしか。

『十訓抄』による

(注) 1 九条民部卿頼頼——藤原頼頼。公卿として白河・鳥羽院のもとで力をふるった。

2 近衛司——近衛府の役人。

3 いたはること——病氣。

4 しかしかさまはべり——その通りでございませう。

5 少将——近衛少将。

問

(A) ——線部(1)の解釈として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 出家でもして、ひっそり生活すればいいものを
- 2 出家しているのだから、縁組は諦めてほしい
- 3 出家することで、せめてそばで仕えられないか
- 4 出家した後は、別々に暮らしてもらいたい
- 5 出家しても、互いに助け合うべきだ

(B) ——線部(2)の現代語訳として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 民部卿からの書簡を差し出しつつ
- 2 民部卿が発言した通りに
- 3 民部卿から指示されたので
- 4 なま公達の前に出るとすぐに
- 5 他の侍を押しつけながら

(C) ——線部(3)について、「このこと」が示す内容として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 直接話をする事
- 2 折を見て奏上すること
- 3 出家すること
- 4 近衛司を婿にすること
- 5 近衛司になること

(D) 線部(4)の現代語訳を五字以内で記せ。ただし、句読点は含まない。

(E) 線部(5)の文法上の意味として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 可能
- 2 意志
- 3 命令
- 4 断定
- 5 推量

(F) 線部(6)について。なま公達の心情の説明として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 直接声をかけてもらうことを切に望んでいる。
- 2 正直に言ってもらえてとても満足している。
- 3 すぐに伝えてもらえたことを大変喜んでいる。
- 4 分け隔てなく接してもらうことを何よりも願っている。
- 5 身分に関係なく対応してもらえて非常に感謝している。

(G) 空欄 にはどのような言葉を補ったらよいか。最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 おはし
- 2 思し
- 3 奏し
- 4 候ひ
- 5 聞こえ

(H) 線部(7)の現代語訳として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 全て報告しようとはしない
- 2 やはり直接対応するしかない
- 3 全部を打ち明けるしかない
- 4 もはやどうしようもない
- 5 まったく言葉もない

(I) 線部(8)の現代語訳として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 お耳に入れてしまったことは私の過ちです
- 2 申しあげてもとても言い足りません
- 3 申し上げるのも馬鹿らしいことです
- 4 おっしゃったところで無益なことです
- 5 申しあげても仕方ないことです

(J) ———線部(9)について。民部卿が「えせたくみ」だと考えられる理由について、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 取り次ぎの能力に欠ける侍を使ってしまったから。
- 2 なま公達の才能にすぐ気付けなかったから。
- 3 近衛司にその気がないことを知らなかったから。
- 4 目上の人物にしか本当のことを言えなかったから。
- 5 なま公達が結局出家してしまったから。

(K) ———線部(a)～(c)について。それぞれ誰を指すか、次のうちから一つずつ選び、番号で答えよ。ただし、同じ番号を何度用いてもよい。

- | | | | | |
|-------|--------|-------|-----|------|
| 1 民部卿 | 2 なま公達 | 3 近衛司 | 4 侍 | 5 古人 |
|-------|--------|-------|-----|------|

(L) 次の各項について、本文の内容と合致するものを1、合致しないものを2として、それぞれ番号で答えよ。

- イ なま公達は民部卿に出世の口利きを頼んだ。
- ロ 民部卿は病気のせいにして直接対応しなかった。
- ハ なま公達はどんなに偉い人物でも失言はあるものだと言った。
- ニ なま公達は出家した後で亡くなってしまった。
- ホ 侍が機転を利かせたことでかえって事態が悪化した。

【以下余白】

